

18-24. 4) Dixon R.K. *et al.* (1994) Carbon pools and flux of global forest systems. *Science* 263 : 185-190. 5) 社団法人海外産業植林センター (1999) 平成 10 年度新エネルギー等導入促進基礎調査「産業植林 CO₂ 固定化評価等に関する調査研究報告書」。6) 社団法人海外産業植林センター (2000) 平成 11 年度新エネルギー等導入促進基礎調査「産業植林 CO₂ 固定化評価等に関する調査研究報告書」。7) Guhardja, E. *et al.* eds. (2000) Rainforest Ecosystem of East Kalimantan, *Ecological Studies* 140. Springer Tokyo. 8) 住友林業株式会社 (2000) 環境庁平成 11 年度「地球温暖化対策クリーン開発メカニズム事業調査インドネシア東カリマンタンにおける植林事業調査報告書」。

図書紹介

◎多様な森林を訪ねて (ヨーロッパ, アメリカ, 日本の多様な森林整備の現場からのレポート) (財)国際緑化推進センター編集, 195 頁, 発行: 吉田印刷 K. K. (Fax : 03-3696-1091), 東京, 2000 年 3 月刊, 1,600 円 (税込み) 送料 210 円

森林に対する要請が国際的にも, 国内的にも多様化してきている現在, 要請に応えうる森林を造成, 整備するための技術指針が求められている。このような背景から, 林野庁森林保全課の調査事業として, 多様化森林造成技術開発委員会が組織され, 国内外の多様な森林経営の事例調査が行われている。本書はそのうちの平成 3 年度から 5 年間の調査成果を要約編集したものである。副題に見られるように, 欧米及び日本の多様な森林整備現場の現状報告が, 多数の写真を使って, 分かりやすく解説されている。ヨーロッパでは 6ヶ国の森林が取り上げられている。その中にはフランスの傘伐作業 (ブロー州有林) やスイスの照査法 (クヴェ実験林) など著名な施業が紹介されている。その外ドイツとイギリスの森林施業の紹介が詳しく, ドイツでは針葉樹林の各種択伐作業, イギリスではランドスケープマネジメントや針広混交林の整備現状が報告されている。北米大陸では, 東海岸のアメリカからカナダにかけてのアパラチア山系の森林整備状況, とくに広葉樹林の非皆伐を中心とした各種施業が紹介されている。国内では, 長野県や北海道における針葉樹天然更新や複層林化施業, 秋田, 岩手, 島根の各県における混交林, 長伐期林施業などが紹介されている。そして, 最後に日本の国土に適した多様化森林整備の技術方向が提案されている。この中で, 欧米の多様化森林造成技術の直輸入でなく, 日本の森林施業技術との融合をはかり, 各地の気候風土, 社会条件に合った施業技術体系を確立することの重要性が強調されている。本書は, 林業行政官はもとより, 現場の林業技術者に役立つばかりでなく, 大学院学生に森林施業の入門書として有益であると信じる。

(森 徳典)